

## 3月 豊かな自然環境の証し



動物写真家 須藤一成

12

残雪の上に立つ。春の日差しと風が心地いい。山にも春の気配が漂っている。野生動物たちは、厳しい冬を乗り切ったという安堵感からか、気持ちよさそうに陽光を浴びている。カモシカが、反すうしながら座つてくつろいでいる。雪解けとともに山を登って来たニホンジカが、眩しそうに目を細めながら植物を食んでいる。

しかし、イヌワシは春をのんびりと過ごしている訳にはいかない。すでに繁殖が始まっているからだ。厳冬期の2月初旬に産卵し、3月下旬には雛が孵化して子育てに忙しくなる。イヌワシは、冬の間も繁殖に備えて活発に活動している。冷たい北西の季節風が強まるごとに、彼らは待ってましたとばかりに飛び立ち、斜面を吹き上げる風を利用して気持ちよさそうに飛び回る。ホバリングや急上昇など、飛行しながら獲物を探すことでも多くなる。冬は木々が落葉して林床まで見通せる上に、雪が積もつて獲物を見つけやすくなる。

繁殖期の前に獲物が十分に捕れるかどうかは繁殖の成否に大きく影響する。湖国の山岳地に生息するイヌワシの繁殖成功率は低く10%程度だ。全国的に低い傾向にある。日本イヌワシ研究会がまとめた全国の繁殖成功率は2010年以降20%を下回ることが多く、この30年で100つがい以上がいなくなった。

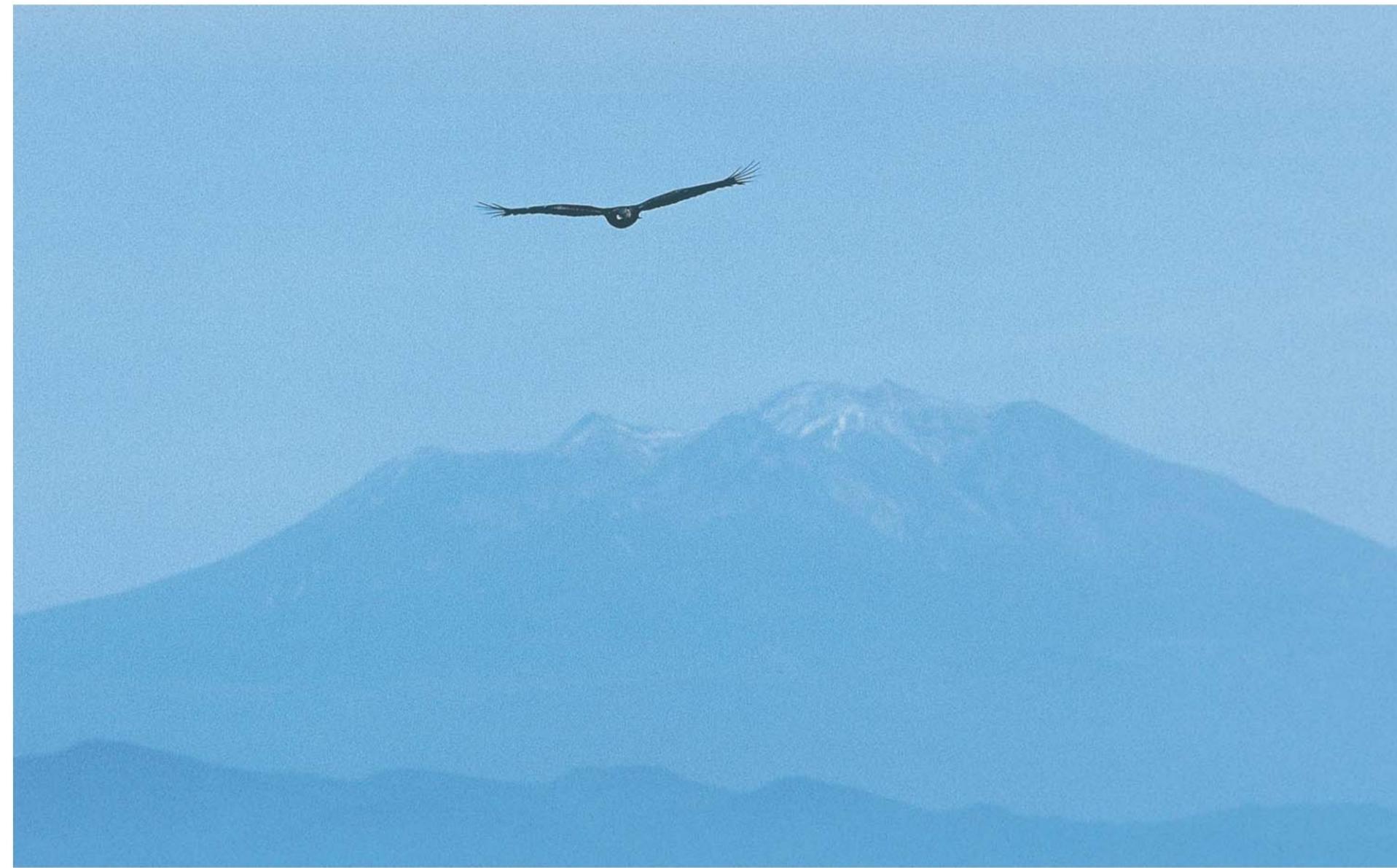
かつてイヌワシは、山の守護神として大切に守られていた。その証が全国各地にある。イヌ

ワシの営巣地の近くに祠や鳥居、石仏などが残されている。現在ではそうした信仰心は薄れてしまったが、「豊かな自然の中で、他の野生動物同様に人間も生かされている」という考え方方は今の時代にも必要だ。イヌワシが豊かな自然環境の指標種であることは9月に述べた。イヌワシを守ることは、自然環境の豊かさを守ることでもある。

私達は、科学技術の発達とともに、莫大なエネルギーを消費するようになった。エネルギーを作り出すためには、自然環境に負荷をかけてしまうことが避けられない。自然に優しいエネルギーとして導入が進んでいる風力発電だが、イヌワシが生息する豊かな森を何にも渡って伐採し、尾根を切り崩して設置されるケースがあり、自然環境に大きなダメージを与えることがある。また、鳥やコウモリなどの風車への衝突死も深刻な問題である。2008年9月には、岩手県の釜石広域ウインドファームでイヌワシが風車のブレードに接触して死んでいる。

風力発電は環境への影響が大きく、設置場所には十分な配慮が必要だ。国土が狭く人口密度の高い日本で、人と野生動物がせめぎあいながらも共に暮らして来たことは素晴らしいことだと思う。山にはイヌワシが舞い、森の中をツキノワグマが闊歩する。先人たちが残してきた豊かな野山が、さらに未来へと引き継がれることを願っている。

イヌワシは豊かな自然と共に生きている



## イヌワシ舞う野山 未来へ



山の守護神



イヌワシの巣直下に安置されている石仏。イヌワシの生息地は、人にとって大切な場所として守られてきた歴史がある  
(滋賀県内)



すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に撮影を取り組む。米原市在住。写真集『Golden Eagle イヌワシ』(平凡社)など。

4月から「野生のいぶきシーズンII 湖国からアフリカへ」がスタートします。須藤さんが10年以上かけて取材したアフリカの野生動物の生態を写真と文章でお届けします。第3水曜掲載予定